

復職及び生涯現役を希望する薬剤師のためのセミナー

集中プログラムでレベルアップ、復職のハードルを飛び越えよう！
厚生労働省薬剤師生涯教育推進事業
復職及び生涯現役を希望する薬剤師のためのセミナー
2016.2.14・20・21開催

1. 対象：1) 就職を希望している全国の離職中の薬剤師
2) 自己研鑽としてレベルアップを希望している薬剤師
2. 募集定員：100名【先着順】
3. 受講料：無料

■講義内容 講義1) 技術演習 2月14日(日)
会場：北里大学薬学部コンベンションホール

患者とのコミュニケーション技術 講師：平井 みどり
所属：神戸大学医学部付属病院 / 薬剤部長・医学部教授

注射薬混合調製の基礎 講師：松原 肇
所属：北里大学薬学部 / 薬物治療学Ⅲ教室 教授

保険調剤 講師：菅野 敦之
所属：明治薬科大学臨床薬学部 / 地域医療学 准教授

病棟業務 講師：西澤 健司
所属：東邦大学医療センター大森病院 / 薬剤部長

レセコンの使い方 講師：山之内 翔
所属：三菱電機インフォメーションネットワーク株式会社

地域包括ケア推進のための薬局業務 講師：小縣 悦子
所属：ライフバランス薬局

フィジカルアセスメント(血圧、呼吸、心電図など)実習を含む
講師：小宮山 貴子：久保田 理恵 北里大学
所属：薬物治療学Ⅳ教室教授 / 薬物治療学Ⅳ教室准教授

講義2) 最新の医療環境 2月21日(日)
会場：北里大学薬学部コンベンションホール
医療政策 講師：小山 信彌
所属：東邦大学医学部・特任教授

認知症 講師：周郷 延雄
所属：東邦大学医療センター大森病院 / 脳神経外科教授

摂食嚥下障害対策 講師：関谷 秀樹
所属：東邦大学医療センター大森病院 / 口腔外科 教授

循環器・心疾患を含むメタボリックシンドローム予防
講師：山崎 純一
所属：東邦大学学長

最新のがん治療 講師：住野 康清
所属：東邦大学医療センター大森病院
消化器センター内科センター長

医療安全 講師：渡邊 正志
所属：東邦大学医療センター大森病院
医療安全管理部 教授

地域包括ケアの現状 講師：村井 貞子
所属：東邦大学名誉教授

実習1) フィジカルアセスメントの基礎 2月14日(日)
会場：北里大学薬学部 1号館

フィジカルアセスメント(血圧、呼吸、心電図など)実習を含む
講師：小宮山 貴子：久保田 理恵 北里大学
所属：薬物治療学Ⅳ教室教授 / 薬物治療学Ⅳ教室准教授

実習2) 注射混合調製の基礎 2月20日(土)
会場：東京薬科大学千代田サテライトキャンパス
注射混合調製の基礎

講師：西澤 健司
所属：東邦大学医療センター / 大森病院薬剤部長

薬剤師生涯研究推進事業【目的】
出産・子育て・介護等で離職した薬剤師が、再就職を検討するにあたって、離職中のブランクを埋めるため、あるいは現状より更に高度な医療機関への転職を希望する薬剤師が、より高度な最新の知識と技能を具備することを支援する目的で、特定機能病院における最新の医療の現状を学ぶプログラムを提供する。

薬剤師生涯研究推進事業【背景】

薬剤師が実務を行うためには、医療に関する最新の知識を修得していることが基本的には必要である。2006年から実施されている薬学教育6年制は、カリキュラムに臨床薬学を配したことにより、より卒業生の医療の現状理解を推進したと考えられる。しかし、実際には薬学教育が6年制になる以前の教育を受けた薬剤師が、実務についていることが多い現状である。本事業の目的に示した家庭の事情でやむなく離職している薬剤師もこの年代であり、それらの人材にとっては離職中の医療の進歩による知識の欠如とともに、6年制カリキュラム履修者との知識のギャップは大きいと考えられる。

それらに対応するべく、日本女性薬剤師会では、就業を中断している薬剤師の再教育の目的で、通信講座「診療ガイドライン・薬剤コース」、在宅医療推進のための「移動セミナー」、学術講演会の開催などの事業を実施しており、日本薬剤師認定制度認証機構より、プロバイダーとして認可されている。また、これらの事業は、離職者のみならず、自分自身のブラッシュアップを希望する薬剤師が利用する結果にもなっている。

これらの生涯教育に関する一連の実績を踏まえ、本事業では薬剤師が学習する為の、より実践的な教育プログラムを計画した。つまり、「医療政策」と医療法に定める特定機能病院の関係の考え方からスタートし、日本の医療上の課題であり、国が積極的に対策を推進している「認知症」「摂食嚥下障害」「メタボリックシンドローム」「がん(特に肝がん)」などの薬物治療を含む疾病治療と予防の最新情報、「特定機能病院における医療安全」、「高齢社会では、すでに医療の場ともなっている地域包括ケア」の最新動向に関する講義、および、フィジカルアセスメントをはじめとした技術演習を行う。また、地域包括ケアを推進し、健康相談を実施している薬局の見学を行う。さらに希望者を募り、病院及び大学などの見学を計画している。

本事業の評価は、対象の背景などとともに、保有している知識に関する事前調査、本プログラム実施後の知識・技術の修得に関するアンケートあるいは小テストを行い、更に2年後の就職状況の変化をfollowすることも視野に入れる。

また、本事業を継続して行うことで、地方の特定機能病院での開催や、特定機能の内容を変えるなどの将来計画もある。

2015年日本女性薬剤師会アンケートの考察

過去2回の調査で日本女性薬剤師会は専門職として「仕事と家庭の両立」に悩みながらも、自分の能力を発揮し社会貢献したいという薬剤師像が浮かんでいた。これを踏まえて今回の調査はそういった薬剤師にステップアップの手段として認定薬剤師制度を活用できるよう日本女性薬剤師会としての支援を見出す為を実施した。

認定制度への認識と理解は予想とするとところであったが、認定証の意味やメリット並びに無関心の所以が浮かび上がってきた。仕事を続けたいという人が20歳代から70歳代以上まですべての年代で75%以上であることは、生涯学習、生涯現役の意識が顕著にあらわれ専門職の集団として心強い結果であると考えられる。その中で、認定薬剤師でない人のうち、今後も認定薬剤師を取得するつもりがない人が半数いる。またその半数が正規職員ということが驚きでもあった。認定薬剤師を知っているけれど、その半数が取得していない、取得予定がない、と述べている。また3割が取得するかどうかかわからない、と答えている。認定証取得を目指さない中に、時間が無い、家事との両立が難しい、仕事時間と合わない、学習機会がない、子育て中合わせて4割を超えた。従って、薬剤師継続学習通信講座の内容をより一層充実化し、生涯現役を希望する薬剤師の支援をしていかななくてはならないと考えている。また、制度の理解不足が挙げられる。キャリアパスの導入、薬剤師免許更新制を見据えた認定と考えるには時期早々ではあるが、認定証取得は目まぐるしく進化する医療職に携わるものとして必要な知識・技能の習得と捉えるべきではなからうか。申請時手続きの簡素化や認定機関間の融通も改善していくと未取得者並びに更新者の取得意欲が増すとと思われる。

日本女性薬剤師会として、学習機会の提供もさることながら、真のG16認定薬剤師の輩出のために、他の認証機関との違い特徴を打ち出していくべきではなからうか。

JWPA 日本女性薬新聞 No.55

平成28年3月1日発行 編集発行人：近藤 芳子
発行：一般社団法人 日本女性薬剤師会
東京都墨田区太平 3-1-1 坂部ビル 2階 Tel 03-3621-0489 mail:jwpa@khh.biglobe.ne.jp www.jyoyaku.org

あつちつ



一般社団法人日本女性薬剤師会
会長 近藤 由利子

全国都道府県女性薬剤師会員の皆様には、本会の運営事業にご協力を賜り感謝申し上げます。日本女性薬剤師会(日女薬)は、女性の視点での生涯教育に力を入れ、会員相互の連携の下、女性薬剤師の社会的地位向上を図るとともに地域社会の健全な発展に貢献し、公衆衛生の向上と国民の保健・医療及び、福祉の発展に寄与することを目的として活動しています。

少子高齢化社会の進展、疾病構造の変化、ICTの普及や国民の意識の変化などに伴う厳しい医療環境のなかで、会員の地域特性に配慮しつつ、女性の感性を活かした活動の理念と役割を明確にし、女性医療及び健康に貢献しています。

また、日本薬剤師会をはじめ多団体との連携を図り、薬局・薬剤師を活用した地域の健康情報拠点として、「女性の立場から国民の健康を考える～ライフステージに合わせたセルフメディケーションを推進する」としています。臨床検査技師等に関する法律の一部改正により、薬局においても利用者自身が採血することが可能となりました。検査値を踏まえた健康相談に助言や指導に対応する健康情報拠点薬局として受診勧告などの役割を担っていきたいと考えています。

日女薬の継続事業である移動セミナーは、「保健・医療の懸け橋になろう」をスローガンに、在宅医療・在宅介護の中核的人材育成や新しい制度への対応は、今後、セミナー開催県女性薬の地域特性にあった実証実験のもとに、継続しています。在宅推進を先駆けて取り組んだ証とも言えます。薬剤師認定制度認証機構より、生涯研修制度の実施機関として認証されて4年になります。一層充実した研修・継続教育など、県女薬間のネットワークを強化し、女性薬剤師としてのあるべき生涯研修制度の充実を目指していく所存です。

学術講演会 老年医学の臨床からバランスの良い老化(抗加齢と健康サポート)を考える

最近の医療行政について
厚生労働省 大臣官房審議官 森 和彦 先生

バランスの良い老化を考える
東京大学医学部附属病院 老年病科 教授 秋下 雅弘先生

長生きは「唾液」で決まる
日本大学歯学部摂食機能療法講座 教授 植田 耕一郎先生

強き者よ、汝の名は女
番町法律事務所弁護士(第二東京弁護士会) 菊地 幸夫 先生

☆食べて実感!!スマイルケア食スタジアム
会場：Annex Hall・ホワイエ
進行：社会福祉法人 賛育会 賛育会病院
賛育会栄養管理SV・管理栄養士 木口 圭子 先生

日時：平成28年6月19日(日)
参加費：7,000円 薬学生無料(要学生証・テキスト代別途1,620円税込)
会場：国際ファッションセンター(KFCビル)3F 東京都墨田区横綱 1-6-1
対象：全国の薬剤師・薬学生 取得単位：日本女性薬剤師会認定単位(G16)4単位
主催：一般財団法人日本女性薬剤師会 後援：一般社団法人日本病院薬剤師会
申込方法：会員・各県女役まで 非会員：当会事務局まで 03-3621-0489

平成27年度功労賞受賞者

笠川宏子先生(70歳) 青森県

昭和45年入会し、平成12年より平成22年に亘り、青森県女性薬剤師会会長を務め、この間青森県薬剤師会理事、青森県薬剤師会弘前支部長を兼務し薬剤師会に多大の功績を残した。医師会をはじめ多職種と連携した研修会を積極的に開催するなど、女性薬剤師をリードしてきた功績は大である。市民健康まつり、ダメ・ゼッタイ運動、県民公開講座などに積極的に参加し、医薬品の安全使用についても地域住民に幅広い知識をもって対応してきた。平成元年から現在に至るまで、学校薬剤師として、学校の環境衛生管理、飲酒や喫煙、薬物乱用防止に関する啓発活動など、子供たちの安全で健康な学校生活をサポートしている。日本女性薬剤師会主催研修会に参加し、研修内容を地元会員に伝達してきた。平成21年より平成24年まで日女薬監事を務め、日女薬への多大の貢献を残した。

上松恵子先生(60歳) 新潟県

昭和60年に入会し、新潟県女性薬剤師会役員として編集委員、副会長、会長(平成22年度~25年度)を務め、現在は総務委員として活動している。日女薬企画の研修会には、積極的に参加し、学習を深める一方、他県女薬との積極的交流で見聞を深め、地元への伝達に努めている。新潟県女薬の若手役員の柔軟な発想をうまく取り入れ、即、行動企画する県女薬を作り上げていく。新潟県薬剤師会理事(平成23年度から現在に至る)として市民公開講座企画、ピンクリボン活動担当等、新潟県薬においても大いに貢献している。学校薬剤師として、環境衛生、お薬教育、薬物乱用防止授業に力を注ぎ、又、薬事衛生指導員として、一般市民に薬についての啓蒙活動を行っている。新潟県薬生活学会の一員として参加するなど、薬剤師の立場から広い分野での活動にも寄与している。

原田八恵子先生(66歳) 愛知県

昭和62年愛知県女子薬剤師会に入会し、医薬分業黎明期の女性薬剤師会の各活動に参加し、特に女性薬剤師の再就職支援、医薬分業の推進に取り組んだ。平成3年理事となり県薬と協調をとりつつ、分業達成の為に奔走した。平成16年「第2回日本女性薬剤師会移動セミナー in 愛知」開催の際は率先して企画・運営に当たり、大会を成功させた。女性薬剤師会の大きな柱である生涯教育担当として歴代の会長を支え、会員の資質向上に努めた。時代をリードする内容の充実にも成長させた功績は大きい。平成9年に副会長に就任し、愛知県女薬の重鎮として会員を支え組織の結束を固めている。平成24年4月一般社団になって以来、様々な組織運営の問題解決に取り組み、会員の育成・組織強化に絶えることなく情熱をもって努めている。地域の薬剤師会と良好な関係を築いて女性薬剤師会に対する信頼を得、女性薬剤師会の発展に寄与する所は大きい。



愛知県女性薬剤師会の今

愛知県女性薬剤師会は平成24年に法人化し、4年目を迎えています。社会的に責任ある団体でありたいと願い、スタッフ一同試行錯誤を繰り返しながら努力を続けています。メリットは対外的に信用度が増してきていることでしょうか。その分、役員は常に緊張感を持って外部との折衝にあたり、社会的に成長してきていると思えますが、任意団体の時代を振り返るとゆとり感が失われているように見え、兼ね合いの難しさを感じています。

会員数は約420名。内訳は約9割が勤務、経営者は1割。愛知県は列島のほぼ中央に位置するため、人口の出入りが盛んであり、勤務薬剤師の異動が多く、会員管理に一層の工夫が求められる状況にあります。3年余の運営から様々な問題点が明らかになり、会員に信頼される組織作りにも本格的に取り組まねばならないとスタッフは認識を新たにしていきます。

活動は生涯学習を主とし、年5回の学術講演会、日女薬の薬剤師継続学習通信講座・スクーリングの開講。社会的活動として「母と子の健康セミナー」市民公開講座を隔年開催。ワークライフバランス社会づくりを目指す愛知県男女共同参画推進事業に参加しています。

平成27年度事業報告

- *学術講演会 5回シリーズ(隔月開催:認定 3単位) テーマ 「多様化する社会をサポートする薬剤師の役割を求めて」 ~幼少児から高齢者まで~
*日本女性薬剤師会薬剤師継続学習通信講座 スクーリング 2/28(2016)
*日女薬国際交流事業:ケンタッキー大学薬学生交流会 8/2
*2015あいち男女共同参画のつどい 10/2 ポスター展示 男女共同参画セミナー「認知症サポーターについて」 2/14(2016)



日本女性薬剤師会四国ブロック会総会、研修会開催報告

平成27年5月17日(日)、香川県薬剤師会朝日町会館において総会及び研修会を開催しました。四国ブロック会総会への出席者は、愛媛県女性薬剤師会11名、高知県女性薬剤師会9名、香川県女性薬剤師会10名、ご来賓2名でした。香川県女性薬剤師会中山幸子会長の開会挨拶のあと、日本女性薬剤師会四国ブロック会 渡部シゲ子会長より「昨年女性薬剤師会の男女参画のアンケート結果に基づき、女性が輝く職種になるように支援をしましょう。」との挨拶がありました。来賓として、香川県薬務感染症対策課土居英之課長より「来年の改定ではかかりつけ薬局の機能が最重要視されるが、他科受診による薬の相互作用や残薬確認のためには、患者情報の一元化が大事である。そのために薬手帳の電子化を促進している。」と挨拶がありました。辻上巖会長からは「我々薬剤師の厳しい現況を打破するには、女性の生真面目で、ぶれないパワーが必要であり、細やかな女性目線が、かかりつけ薬局を充実させる。活躍を期待している。」と激励の祝辞をいただきました。平成26年度の三県の事業報告の後、愛媛県女性薬剤師会渡部シゲ子会長の次回開催の抱負と閉会の挨拶で総会は終了しました。午後から女性部総会が開催し34名が出席しました。その後、四国ブロック会の出席者を加えた54名の研修会を開催しました。高松市民病院検査科診療部長熊谷久次郎先生には「腫瘍の病理総論」と題して、腫瘍細胞の採取から検体作り・同定まで、パワーポイントを使って細かく説明していただきました。学生時代にもどって授業を受けました。癌細胞も多種多様である。特に良性腫瘍と悪性腫瘍の間の境界型腫瘍というのは、病理医10人よれば、10人の意見があり、結論を出すには経験がものを言う。」と話されました。次に、勇心酒造株式会社研究所大久保明所長は「お米と醱酵の力」と題して、ライスパワーの開発過程と会社の理念をご講演いただきました。大久保所長は徳山孝社長の30年に及ぶ研究努力と会社理念に感銘を受けたから、東大農学部教授の職を辞して香川県に移住されたそうです。「お米は日本人の体の元である。そのお米を麹で醱酵させてできたのが日本人の体に合わないはずがない。杜氏が守り育てていく醱酵は自然との調和から生まれるもので、天然型バイオテクノロジーとでもいえるでしょうか。醱酵産物なので、何かが特定できない場合もあるが、化粧品はもちろん胃潰瘍・アトピー・育毛などの効果が認められ商品開発をしている。売れるから増産するのではなく、技術の継承と自然の調和を保ちつつ開発している。醱酵は日本の得意分野である。地方の酒造会社から全国へ、そして世界へと発信している。これが、地方創生ではないか。しかし、あくまでも、調和を崩さずに奨めていく。勇心酒造のそして徳山社長の信念です。」と熱く語っていただきました。両講師とも、熱弁を奮っていただき、大変ごたえのある研修会となりました。ありがとうございました。

香川県女性薬剤師会 副会長 中村 清美

女性薬剤師会 「第13回 日本女性薬剤師会移動セミナーin京都」



「第13回 日本女性薬剤師会移動セミナーin京都」が平成27年9月27日(日)、キャンパスプラザ京都にて開催され、全国各地から18名もの方の参加をいただき、盛会裏に終えることができました。これは京都府女性薬剤師会会員にとりまして大きな喜びでございます。これも全国からの参加者の皆様や各方面の方々のご支援、ご指導、ご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

ここ数年間で少子高齢化が急速に進み、薬剤師をとりまく環境もめまぐるしく変化してまいりました。そして、「薬剤師も調剤だけしていればよい」という時代はすぎた」とか、在宅へ行っても「お薬の配達だけに終わっていないか」という薬剤師の意識改革を促す言葉を耳にするようになりました。地域に密着した薬局・薬剤師が地域包括ケア体制の中で多職種と連携し、医薬品適正使用に関わる薬の専門職を発揮することがますます求められる今、さらに一歩を踏み出すため、今回のサブテーマは、「ジャンプ!理論から実践へ」といたしました。



来たるべき25年はすぐやってきます。そして、10年後には65歳以上の5人に1人が認知症になり、現在でも2人に1人が癌になると言われています。そのことから、プログラムの部では、超高齢化社会で今後ますます増えると思われる疾患「認知症」「嚥下障害-誤嚥性肺炎」「がん-緩和ケア」に関するご講演内容とし、講師の先生方からは薬剤師が地域包括ケア体制の多職種連携の中で果たすべき役割の大きさや今後の取り組むべき課題を示していただきました。

2部では「在宅における安心安全な薬物療法」のテーマで、移動セミナーとしては初めての実技を取り入れました。そして、グループに分かれ、薬剤師が在宅に行ったとき最低限知っておかなければならない簡易懸濁法、クリーンベンチでの調剤、経腸栄養、中心静脈などの実技を体験していただきました。今回アンケートをとらせていただいたところ、参加者のうち在宅経験のある方は25%でした。セミナーに実技を取り入れたこと、実践のスタートラインに立てたことで、今後各地域で次のステップへと、さらに発展させていくよい機会となりますように願っております。

京都府女性薬剤師会会長 常木雅美



第13回移動セミナープログラム

- 第一部:地域包括ケアでの多職種連携(症例ごとの薬剤師の役割)
□講演1「地域包括ケアシステム~薬局に求められる役割とは?~」 山本保健薬局 代表取締役社長 山本新一郎先生
□講演2「認知症の医療とケア~地域ケアの取り組みから」 京都桂病院 精神科部長 岸 信之先生
□講演3「在宅医療における嚥下障害と誤嚥性肺炎」 ~高齢者の嚥下・栄養に関する地域包括ケアについての研究調査から~ 京都府立医科大学 在宅チーム医療推進学 教授 山脇正永先生
□講演4 「がん化学療法を受けられている患者さんのサポーターケア」 同志社女子大学 薬学部 特任教授 阿南節子先生
第二部:在宅における安心安全な薬物療法(実技学習)
※実技A:簡易懸濁法とクリーンベンチでの調剤
※実技B:中心静脈栄養法と経腸栄養法

第14回日本女性薬剤師会全国移動セミナー in 青森

- 平成28年9月17日(土)オプション見学研修 14:00(集合:青森駅前)
平成28年9月18日(日)第14回移動セミナー 9:30~16:00 (会場:青森市 国際ホテル 青森市新町1丁目6-18)

テーマ:保健・医療・福祉の架け橋になろう、そして在宅医療
日時:・在宅介護への対応 ~地域の多職種との連携による地域包括ケア体制の中で地域医療提供施設としての役割~

9:30~開会式 10:00~12:00(仮)「チーム医療・連携の本質」 講師:佐藤 和弘 様 メディカルアートディレクター 医療教育団体MEDPRO 創業者代表
医療を支えるノンテクニカルスキル(非医療技術)の医療教育者研修を多数実施し医療の質の向上に貢献している。地域包括ケアの構築が推進される中、医療だけでなく、介護関係者や地域住民を含めた多職種の中で参加者間の意見をどのように繋いだらいいのだろうか。グループワークで実践し「わかる」から「できる」を目指す 12:15~13:15 ランチョンセミナー
13:30~16:00「あなたも在宅チームの一員」 シンポジウム形式

在宅医療でも活躍できる薬剤師を目指します!!

平成28年度 薬剤師継続学習通信教育講座
2025年問題を目前に控え、処方箋調剤のみならず、地域包括ケアの中在宅医療への参加、セルフメディケーションへつながる一般用医薬品の販売など薬剤師に対する期待には大変大きなものがあります。医療の進歩も早く、新しい治療法や薬が続々と出てきていますので、継続的な学習が必要です。平成28年度版より、在宅医療を担う薬剤師へも配慮し、作成しました。離職者支援のための学習にも利用できます。

- シリーズ1 疾病と食育
シリーズ2 在宅で役立つ輸液キット製剤の知識

学習スケジュール 4月開講 1年間に8冊を学習 ※発送月は目安です

Table with 4 columns: Lesson Number, Topic, Content, and Date. Lessons include: 1.腎不全 (肝移植・透析を含む) 平成28年 4月; 2.免疫抑制剤 (免疫抑制剤の基礎知識) 5月; 3.肺がん (最近の治療) 6月; 4.下痢・便秘 (原因と対策) 7月; 5.胃瘻・ストリーマ (仕組みと対応) 10月; 6.難聴・耳鳴り (原因と治療、症状の克服方法) 11月; 7.小児感染症とワクチン (ワクチンが有効な小児感染症) 12月; 8.加齢に伴う心身の変化(1) (消化吸収の変化にどう対応するか) 平成29年 1月

研修センター報告2016年1月17日

- ①薬剤師認定制度認定機構の審査により、G16は平成33年12月13日までの更新が承認されました。審査結果では、非常に高い評価が得られましたが、以下の2点についてはかなり厳しい指摘がありました。
1) 男性会員の獲得への広報 例:男女共同参画事業「〇〇研修会」
2) 研修会におけるメーカーの製品説明は除く。今後、研修会内容をより厳しく審査いたしますので、都道府県女性薬剤師会長各位には何卒宜しくお願い申し上げます。
②G16認定薬剤師数は98名です(1月14日現在)。
③小論文投稿者(1~6回)は11名(大分2名、神奈川2名、北海道2名、茨城・埼玉・新潟・千葉・東京都各1名)で37件ありました。

- ④第17回薬剤師認定研修機関協議会 (於 埼玉産業文化センター) 日時:2月6日(土)14:00~17:00 情報交換会7:10~19:00 *次回第18回は当会が担当です。 8月6日(土)14:00~17:00 情報交換会7:10~19:00 於 KFC 2nd
⑤平成27年度厚生労働省「薬剤師生涯教育推進事業」で「復職及び生涯現役を希望する薬剤師のためのセミナー」が採択され、2月14日・21日(座学)及び14日・20日(実習 フィジカルアセスメント及び注射薬の混合調製)を実施します(別紙参照)。受講生は110名です。